

[主訴]

右足裏側臀部からふくらはぎまでの痛み

[随伴症状]

腰痛、左腰より右腰の方が痛い、肥満、口渇、やや頻尿、夜間排尿（一晚二回）食欲あり、鼻炎

イライラなし、爪異常なし、眼精疲労なし、胸脇苦満なし、不眠はないが坐骨神経痛の痛みで起きることが増えた

胃もたれ等胃腸症状なし、倦怠感なし、浮腫なし、便秘なし、下痢なし

[経過]

4か月前に仕事で重いものを持ち上げ腰痛を発症し、次第にふくらはぎの張りをを感じるようになった。

そのうちによくなるだろうと接骨院に通院して様子をみていたがふくらはぎの張りが痛みに変わってきて生活に支障がでてきたため来院。

現在は仰臥位でもふくらはぎの痛みを感じるため熟睡ができなくなっている。

これ以上症状が悪化すると仕事ができなくなるかもしれないと不安そうである。

整形外科では腰椎の間隔が少し狭いと診断された。

[切診]

ふくらはぎに柔軟性がなく張っている。圧痛はない。

どちらかというとき喜按。

臀部は圧痛顕著。

冷えは感じず、熱いわけでもない。

膀胱経も熱の片寄りなし。

[腹診]

臍下任脈やや力なし。

腹部胃経やや緊張あり。

上焦に熱感あり。

[脈診]

やや力があり浮いている。

左尺腎部の虚が目立つ。

次いで左関上肝部の虚が目立つ。

[証の決定]

腎虚熱証で膀胱経の熱。

[治療]

経渠、復溜の補法。

陰谷の補法を追加。

金門7分1番鍼で瀉法。

腎兪、肺兪置鍼。

腰部の緊張部分を0番やや深めで置鍼。

[備考]

週2回の通院を薦めたが仕事の都合で週1~2の通院となった。

2診まで症状の改善みられず。

3診から委中と束骨の瀉法を追加。

7診で痛みで夜中に起きることがなくなった。

鍼の効果を実感したためか週に2回、多い時は3回来院するようになり約3ヵ月で坐骨神経痛の症状はほとんど改善した。

坐骨神経痛の改善とともに夜間排尿の回数も減り、現在は一晩に1回起きるか起きないかのこと。

主訴が改善されたが鍼治療を受けていると身体の調子がよいとのことで、現在は2週に1回程度で通院中。

まず下肢の痛みの走行が膀胱経であるため膀胱経に変動があることは間違いない。

問診等から肝と脾の症状がほとんどなく腎の病証が多いた腎の虚から発生した熱が膀胱経に波及したと考えた。

下腿に圧痛は無かったが臀部に圧痛があったことと脈に力があつたため膀胱経に熱があると判断し腎虚熱証で膀胱経の熱と診断した。